

第3回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「奈良のまちづくり」

日時 令和4年11月5日(土) 10時00分～12時00分

会場 東吉野村住民ホール

資料説明	荒井奈良県知事
	<p>奈良では、リニア中央新幹線、大規模広域防災拠点、関西国際空港接続線という大きなインフラの波が来ています。</p> <p>リニア中央新幹線では、国が来年から名古屋・大阪間の環境影響評価に着手する方針を出すとともに、岸田総理からは、駅とルート確定に知事がリーダーシップを発揮していただければとのご要請を頂戴しました。</p> <p>また、大規模広域防災拠点では、谷部を埋める盛土材にリニア建設の発生土を活用し、鉄道による輸送を検討しています。</p> <p>さらに、関西国際空港接続線では、発生土運搬のために改良した路線も活用し、リニア「奈良市附近駅」と関西国際空港を結びます。</p> <p>これらをつなぐ地域道路として、アンカールートなどの南部・東部地域の道路整備も進んでいます。</p> <p>南部・東部地域のまちづくりでは、今年の3月に条例を制定し、拠点の形成や結節、人材育成を進めています。</p> <p>デジタル化も大事な柱です。地域の新しい雇用や若者の移住定住につながるテレワークのようなことがどんどん広がればと思っております。</p> <p>その他、観光振興、医療・福祉など様々な取組を進めております。田舎でも色々なことができますので、一緒に考えていただければ幸いです。</p>

資料説明	南下北山村長
	<p>下北山村は、下北山スポーツ公園キャンプ場や池原ダム湖、前鬼不動七重の滝など観光資源が豊富で、全国から多くの観光客が訪れています。</p> <p>一方、当村では、①人口減少、②空き家の増加、③森林資源の活用・適正管理という3つの課題を抱えています。</p> <p>人口減少に対しては、外部の民間活力を活用して、地域のハブ拠点を共創したり、小田急電鉄と連携して、行動できる人材の育成などを行っています。</p> <p>また、空き家の増加に対しては、空き家バンクの運営や空き家をリノベーションした移住体験施設の整備を行っています。</p> <p>さらに、森林資源の活用・適正管理に対しては、放置山林の施業や担い手の育成に取り組んでいます。</p> <p>これからも豊かで活力ある持続可能な村であり続けるために、地域資源を活用し、村の未来を担う人材を育て、民間活力と協働のまちづくりに取り組んでいきます。</p>

資料説明	山室上北山村長
	<p>上北山村は、10月現在458人と人口減少が著しく、村内全域の様々な分野においてマンパワー不足が懸念されています。</p> <p>このような現状を打破するため、ユネスコエコパークや世界遺産、近年人気のあるナメ</p>

ゴ谷の紅葉等、自然の魅力を活かした、観光を基軸とする産業基盤を構築することが必要不可欠です。

これまでも、ヒルクライム大台ヶ原や大台ヶ原マラソンといったスポーツツーリズムや宿泊施設のリニューアルオープンなど、観光拠点の整備に取り組んできました。

さらに現在は、和佐又山のヒュッテ建替えなどキャンプ場の再整備と、冬の観光振興策として、令和元年度より実施している大台ヶ原の登録ガイドモニターツアーの充実に傾注しています。

このように、村では、1年を通じた観光コンテンツなどの充実を進めており、地域経済の活性化や人口減少などの現状を打破したいと考えています。

資料説明	栗山川上村長
<p>川上村では、水源地の村づくりを展開しています。</p> <p>また、川上宣言の具現化にあたって、今年4月にかわかみ源流ツーリズムを立ち上げ、改めてスタートしたところです。</p> <p>この源流ツーリズムの理念に基づき、2つの柱を打ち立てていますが、1つ目は、住み心地を整えることです。重層的支援体制の整備やコミュニティナースの配置、住民主体の「健康づくりの場」の設置などの取組を進めています。</p> <p>2つ目は、多様な関わり方の創出です。共通する話題でつながることで定住人口や関係人口を増やすため、川上ing 作戦などの交流事業を展開しています。</p> <p>日本にとっての川上村に役割があるように、村のおじさん、おばさんたちにも役割があり、それが誇りや自信につながって、生きる力になっていると思います。行政が健康や暮らしをしっかりと支えられるように、これからも貪欲に挑戦していきたいと思っています。</p>	

資料説明	水本東吉野村長
<p>東吉野村では、令和3年に東吉野村第4次基本構想を策定し、「まちから むらから 人が集う 木と水のふるさと」を10年後の達成する姿として掲げ、村づくりを進めています。</p> <p>移住を進める村づくりでは、古民家を改修した拠点施設としてオフィスキャンプ東吉野を整備したところ、利用者などから村への定住者が増え、一定の成果が出ています。</p> <p>さらに、奈良女子大学とも協働連携協定を締結し、様々な視点からアドバイスを受けながら、まちづくりを進めています。</p> <p>また、これまで村を支えてきた基幹産業である林業を取り巻く環境が厳しいことから、新たに柚子の栽培を促進するとともに、柚子を活用した新商品の開発を行い、柚子の里づくりを推進しています。</p> <p>引き続き、明るい未来を村民と共に築き、「まちから むらから 人が集う 木と水のふるさと東吉野村」を目指して取り組んでいきたいと考えています。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>田舎の地域の発展モデルは、あれもこれもできないので、焦点を絞る必要があります。本日の話を聞いて、地域資源をどのように活かすか、知恵を出して実行する必要があると感じました。</p> <p>その対象の1つ目は、健康・生きがい・生活利便といった各団体共通のテーマです。健康では、南奈良総合医療センターができ、高度医療が良くなりました。一方、福祉では、便利で快適な生き方ができるように、寄り添って生きられないかというアイデアをいただきました。</p> <p>2つ目は、若者の流出をどのように防ぐか、あるいは来てもらうかというテーマです。住みやすいだけでなく、所得や雇用などの個性のあるまちをつくる必要があります。</p> <p>若者は、デジタルの活用が大きな要素であり、若者の教養を高める高度な教養番組を発信できないかと思いました。</p> <p>本日の意見交換を通じて、様々なアイデアのきっかけをいただいたように思います。</p>	